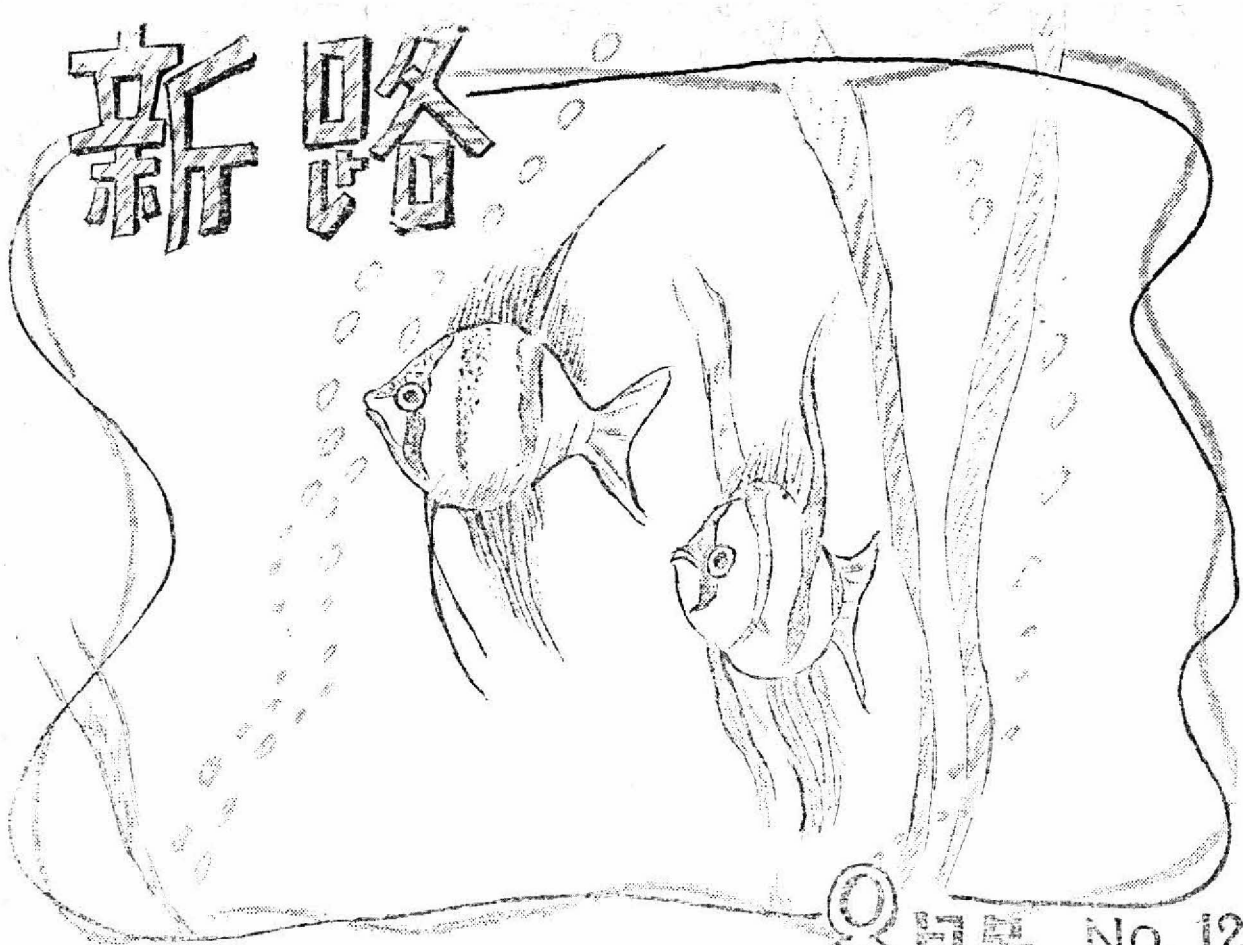


新 略



8月号 No. 12
27. 8. 15.

嶺南合同機関内院外科本報
雑誌研究会発行

目次

★アフターケア
培養陰性の漏入を
手術すべきか
松田 直彦
織本 正慶

考えていること
波谷 修

病院界隈の今昔
鈴木 恒男

ふるさと便り
上 沢 達夫

療友の母と呼ばれて
細谷 弘子

山中湖ハイキング
平野 之清

子出 N嬢の肖像
酒井 正

教養 二本鼻の建ちゃん
並原 美子

スロフィル交換
西那美代子 ↑ 金子 正明

胸ル 味沢 宏子 ↑ 乙 昭明子
戸塚 典子 ↑ 小浜 久ハ

文芸時評
夏 之 献 立
松本 正幸
渡辺 和子

世界展望 (新中国の病院により)
職場の花 (鹿野静枝さんの巻)

役所生活回顧録
アンケート回答
祝島 俊弘
会 員 多 数

あなたは今昭和二十年八月十五日を
迎えて、どんな気持ちで迎えましたか?
遠 藤 昭 談
親知会 日誌
検査成績表
会 員 消 息

脳部成形のミナオとは？
 養所で二、三成功のシンボル
 だが、入社試験でけきすも
 かりのゆるし、理想家の社
 長が抱いた回復期患者が
 だややくはたせ労働の工
 場はとらうこぶれしてし
 だせうだ、やうばり病氣
 工がくしくもグリニゴより
 すがなでさうだが、それ
 うまくゆへ
 一昨業者もは
 だか、だて
 五かたきさるか
 下るかかまひかに、半病人
 がどしてやうしくいけな
 ぶまか、ニゴ、うたニゴ
 ぶたに左の心を苦しめて
 りかたててく運みます、
 軽快した結核の病人が一
 へ前二つをけさうにたす
 しく、同、生活の保護を加
 ぶまか、ニゴ、うたニゴ

近、ろ回復期の病人のあり
 だでアフターケアの問題が
 とりあげられることになつ
 たりは、それだけ軽快した
 人が小々々来たニゴエホア
 もりで大いに喜ぶ、キニ
 と悪いです、
 現在、アフターケアが具
 体時に実施されていらないの
 は、この問題を解決できる

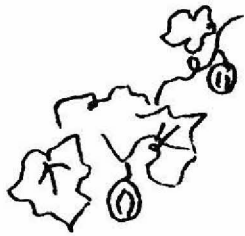
アフターケア

松田道雄

る立役者がまだ舞臺に出て
 きていながらこちから起つて
 いる混乱にすぎません、
 回復に近い病人が口を合
 せて、アフターケアにつ
 いて相談し、困難があり場
 所をはずさねばならない
 無状ではありません、回復
 期の病人の保護エビと
 形で、実施するがといてこ

とについては、いまのニ
 う、病人の養育よりほかに
 よるべきものではないかと思
 います、
 ともなく、結核にうつが
 つにちがいはないあな方も
 この問題について、本意に
 添えて下さい、そればあな
 た方自身の生き方の問題で
 あると同時に、日本の国民
 の生き方にも
 がかつて来る
 と思うので丁

岩波新書 へ結核をなく
 するためのより



短歌

療友の母

細谷弘子

- ★ 病院に保護まうけつつかにがくに
 生きまうける世をありがたしと願う
- ★ 退院の早きを療友はのぞもども
 吾はのぞもす家も麻もななくて
- ★ 療院に一生居りたく思ふ日よ
 幸うて療友の母と呼ばせ
- ★ 退院も間近き療友が十数度
 血をばまりて、下はまきこてよ
- ★ 十数度血をばきしちと表紙の
 療友を感ひて、心安からず
- ★ 略回の療友をえとけう母上の
 又心しのび、胸のこまりぬ





考えていること

昭和二年産形 浅谷修

誰よりも「よい生活

を、昨日、今日、明日に求
め、望みますにはおれなけ
り。それより、むしろ、

創作家は、生活から起る様々

な感動を、創作のために、

いつも、いつも、心に感じ

て、そのうちに溢れなが

り、筆に注ぎこむべしと

願うべきであろうか。

「こゝろが、こゝろの病気の世

界は、病室をなぞる」とい

ふことが、創作なしが

は、その病室をこゝろの病室

非常に関係は、こゝろの病

室である。

「こゝろが、こゝろの病室を

なぞる」といふことは、

その病室をなぞる、こゝろ

に入らぬ、書ける時期に

入らぬ、料理する

は、大いではないかと、

こゝろの病室をなぞるに

及ぶことゝなり、私は、

病室に入らぬ、こゝろの病

室に入る、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

に入らぬ、こゝろの病室

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

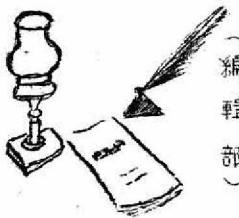
「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」

「こゝろの病室をなぞる」



(編輯部)

— 手術を語る —



培養陰性の麗人を

手術すべきかの？

副院長 織本正慶

本院病院でばりしませルが、私の勤めてゐる国立小病院の医務会のことです。医務会といふのは、

我々二十五人の医者が集つて病状の患者の治方について話し合ふ会です。その時、KにH先生がレントゲンを出して、「K先生は、

卅七八才の外科医で何処かの講師をやつてゐる先生です」

「藤井先生も、これと手術する気がせんでね、院長回診の時にもたしないのが」と云われ

て困りました。H先生は、手術しないで退院させたんですが、

H先生も「それ」と云つた。レントゲンを見るに左の肋骨の下に

影がたゞしと云つた。H先生は、

「影がたゞしと云つた。H先生は、

「影がたゞしと云つた。H先生は、

「影がたゞしと云つた。H先生は、

「影がたゞしと云つた。H先生は、

「影がたゞしと云つた。H先生は、

「影がたゞしと云つた。H先生は、

「影がたゞしと云つた。H先生は、

「影がたゞしと云つた。H先生は、

「影がたゞしと云つた。H先生は、

「影がたゞしと云つた。H先生は、

「影がたゞしと云つた。H先生は、

たのです。皆「やはり、手術すべきか、麗人は、我々に手術しおせよ、

きでしよう」と云いました。私の意見は勿論「成形術」だったので

す。

「成形の効果は一発發揮する形だつたし、これではつとけ八割悪

化すると思つたし、将来の危険性

思ふに、現在二年間の停止した状態に對しては、今は手術の絶好の

チャンスだと思ひました。そうして退院させたことは失策であると思ひました。

「これは、手術しなればなれていつかは悪い」と非難されるべきものでないと思ひました。K先生の手術が、かうもこの非難を出させて

くれたわけは、このためです。するとK先生は「一つ御紹介し

ました」といひました。病を認め

かすのがおもしろい。ドクがけ

かす一人の患者の身の上を聞き、

馬鹿にまじのくさつて

「家餘、濃さんの成形術でののは結婚に相当ひびくからね、よつ

ほど、二つは考へなからちや」と意味慎重に云つたものです。

私は心の中を構りました。これは女医さんが私に「成形しては

ら結婚しないなんていう人」誰が結婚するもんですか」といひつ

て笑ひました。私は大きな聲で「若中に傷があつて結婚出来ない

から、同じ考への方で結婚して成形したと結婚に當るでしよう」と云

ひました。結婚しなればなれより病気の身で離婚される方がとん

に不幸でしてつ。

K先生が本当に真から彼女の二と五思ふなら、夫とこをこわしたくないという気持は充分理解出来

ますが、一歩進んで、結婚出来

乙部明子さん



下田村と云われ
清瀬村の一副、田
正清瀬病院に乙部

さんも私も同じ職入既してしまし
たが、全然、お互いに知り合いま
せんでした。

世の中は広いよって狭いといは
れますが、私たちに於いては狭いよって広
かつたようです。さつと、私は若
護婦さんの云ふことを信ずるに精
ひ迫っていたのに反して乙部さん
はベッドにもくっついてたがらでし
よう。

乙部さんは今年二十二才になら
れる純日本的な女性です、趣味は読
書(特に宗教)それから御本人は
おふしやらないけれど、お人形の
ワンちゃん作りという良い趣味を
お持ちです。作りのよきお知りにな
りたい方はどうぞか。

文字、辛辛として五病氣に自ら
したであらう、公には出ずに未だに
お家のお嬢さん、近頃御来に
は、女の人を誹り、おまじい三分

洋裁を習つて、遠いく将来には
現任して下さるお茶、お花の先生を
望んで下さる。

性格はとても、おとなしい親し
み易い方です。いづれおパン作り
覗いてはるワンちゃんにやほり生
みの親という所から似ています。
アラ、ゴメンナサイ。

私が病院に来て一番始めに出会
た女性のお友達です。いつまでも
お友達でいて下さることに、
(涙)



将来の希望は、結
婚しなくては嫌な
うた、つまり、オールド・ミスか
心積り点と云つた所、しかし均等
か、私に体格と神格に電光石火は
洋曲に出ては負けるわ、美人
と云つてよい。

気胸も年々重なるし、五毒病氣
に燃然として居るようになるのは
当然と云はれ、新入患者さんに優
歌と希望を起させようの行儀は、
マ、マ、マ、の良の先輩というより、

乙部さん、おまじい三分、女の人を誹り、

でしろ、その健康な神経のせいと
思ふべきだろう、御万葉天歌であ
る、押絵の程しく健康なのは病氣
に耐えてだけではない、病気があ
る人はさうして健康をなすたら如
く、作業者法もしはやがになつて
よいでしょう。

趣味は小説といつた具合に可事
知見好き、何さんの夢のまうに、
「夢のまう」に憧れかも知れぬ、
反平の生れ、五臓三年生、小海



小浜又八さん
信社、よく、人に
アカと思われ、大

うで多、確かに二見して感元か
確りあたり、只の曲物ではない、
さうして口をきいてみると、すぐ
「自給時、だ、が、世界観」とし
てだ、と理論的討論をする、学生
時代にカントの崇拜者たつたから

「ニルハ話シをなすのだから、
まだ二十六才の若さだから、こ
れから、持前の粘り強さと其間

男子の優快と、合せて彼の頭腦を
持つて事に当れば、將來必ず成功
するタイプ。

「見合結婚でもお茶結婚でも同じ
さ」口をきいて聞かせるけれど、
大抵は口先のワリ、その証紙に、
アンナ・カレリーニを最近夢中に
なつて読み取り、俺もワロンス
キイの方うに存りたい、存てい
つて居るから明らかだ。

彼の理想の女性はいやいや、
リイとアリアー・ガースンを含む
したような人ださうだが、今のと
ころ、自当らなはらしい、若者
遊び、が趣味だなんて云つて聞
ければ、これ、理想の女性がい
ればから、そり悲しい逃避。

彼も矢張り人の子、将来は將來
な(オチ一條件)女性と結婚して、
三三人の子供を作りたいと、とて
ある、因みに、彼は非常に子供好
きである。

(戸荒)

N嬢の画像

昭和二十六年成形 酒井 正



出思の子の教



「中沢、名名と中沢」
 幾度となく口の中で
 独言を云う、秘匿し
 考えたが、どうして
 も記憶がよみがえら
 ない、教える子の幾つ
 かの胸を写つては消
 え、海の中では沈んで
 行くが、どうしてその
 中に昇出す、エド行出
 来なかつた。
 心せくまに、発
 送者、中沢愛子と書
 かれた小包を附添さ
 んに南けてもらうと
 手紙が入っていた。
 「お別れしてから、
 六年、母や兄と共に
 大邸より浦頭に出て
 遊船で山口県の崎
 に上陸、一時、大坂
 入浴付きまして、マ

の後、奈良和歌山と女子通引揚着
 の流浪の旅を続け、やつと母の里
 である佐世保に送付くことができ
 ました。お互いに別れ、いになり
 再びお会い出来たなら、奇蹟が
 起きない限り有り得ないかと考へて
 いたのですが、思いがけなく同窓
 のMさんから先生のお噂を耳聞さ
 して矢も楯もたまらなくなつてお
 便り致しました。
 懐りの内容によると、私が直接
 受持つた生徒ではないが、放課後
 指導して口づらやオーディオ音の中
 にいたとのこと、その口づけは赤味
 があつた短髪の子を少し縮まし
 たほうせりした可愛らしげな顔が記
 憶に残つているのを思い出した。
 稀口一葉に面影が何処となく似か
 よつていたので興味をもつて機わ
 た事も思い出すことが出来た。
 送られた小包の中には、赤と黒
 のビロードで作られた可愛らしい

サンタクロースも入れられてあつ
 て、
 「向ちなくクリスマスも近づきま
 す、先生の祝元へこのお人形さん
 も飾つて下さい」とあつた。せし
 て、手芸がこども好きなのですよ
 ども、ぶきょうちよだから来わない
 で下さいね」とうけ足してあつ
 た。私は懐かしくあつた。あの女学
 生の口づけがその言葉の中からは
 出て来るような粗しき記憶に、読
 んで行つた。然し、次の瞬間、大
 きなショックを感じてにはいられ
 なくなつた。
 「奈良から和歌山へ移る頃から身
 体がだるく変な力で、きつと引揚
 げて苦労したから服が出たのだ
 と思つていました。胸をやられ
 ていました。左肺下葉と右土葉で
 すから安静の及ぶらくしていま
 す。が、近いうちに気候がたや入
 院します」
 「巻玉に刺さくちませに夢多き音
 響を、尺のワッドに焼たえた日々
 かまちは虚無と秋怨に三三三と懸る

になつて居るのでは無いかと思つて
 一層いとほしく、慰めくやうな気分
 マ一杯になつた。私は早速、豆狸状
 まで出ると共にクリスマスカードを同
 封した。ほら、お返、お返とて札状と
 共に送書書五葉を送つて来た。
 「入眠と同時に、気持身一回を行
 今日には、もう肩が痛化しています。表
 紙(朝鮮語)先生、やっぱり引揚
 てからも、時折、朝鮮語が出てしま
 うのですよ」
 正月を過ぎ、二度、三度と支通して
 る中に、内装に因つて記憶の糸を
 はつきりたどる。これが、六年後
 の彼女の面影もクロースアップされ
 て来た。
 マリマ、大きな服に漂う一片の
 黄色の花びらの如く、時には、強烈
 月日の光を愛けて青く、そして白く
 輝き、数多くの教えるの中になつと
 見つめて居ると、何時までも、何時
 までも見えて離れず、近くは過去
 を話しかけてくるような精神に感じ
 て来るのだつた。

二本鼻の健チヤン

昭和二十六年夏

登原 きみ子

子供達も帰りに

ソツリした午後の教

室で明日の教材調べ

をしていて、二人は新

緑に濡れた戸外の空

気に誘惑を感じると

もう陰気な教室にい

るのが嫌になり、兼

の畑に出く及た

麦の又どり、黄色

の菜の花、そして野

面を渡る青い麻、土

丘から二幅の各曲を

見るような心地よい

眺め、用水池のほと

りのやわらかな雑草

に腰を下ろして、じ

っとしているとき五月

の光を身二ばいに浴

びた魂は、アワラズ

ワラと浮いて行く、

こゝろは遠く眠つて

もいって人でも見られは入交
と大いにいさげつていても、つい
ウトウトと、するに、五月

の空も朝比下と怪かりに「せーん
せーん」切りこんで来た

千ヨロく、あたりを見廻した
が姿はない、一休何処で呼んだ

のかしら、とレヨイと真正面に目
を据えたり、「アツ、いた、いた

健チヤンだ、昨日前の麦の中から
二本鼻がニヨツキり首をたげて

いる、「百んだ、健チヤン驚ろが
して、し、「コハハ、面白かつ

た、先生のこゝろ驚ろかしてやつた
で悪つたんだ、そんなとこで何し

てんだ、い、と云ひ、ちんちん照
れくさい、「ア、ア、しと私が

「まがして、健チヤン、鼻の下
相愛らなすいは、紙をけるからま

れいにし、さいいと紙を差し出す
と、「うん」と素直にかなでいる

「健チヤン、何処へ行つてきたの
か、しと面く、一層の筆を下ろし

て及せて、「斤を採つてきたんだ」
と答える、「どれ、本当だ、すい

いん、次山たつた、脚の音がす
に、さるのり、しと無頼の顔面に健

チヤンの首がたたくに物く
出さの香は賑やかだ、タンホ

ミコ、小川、列る処、食料のたし
に、ならざる物はない、健チヤンの

家では、水が少しゆるる、誰か
が、それよりいづく、今年はず

校に入った健チヤンにオハナが週
つて来たのだらう、

耕す田も畑もない健チヤンの家
では、一番上の兄チヤンが他家の

野良仕事や冬の木橋く、一家が王
計を立立てている、お父やんは、

何かのブローカーをして、いつも
赤い顔にくひえ陽傘で村をブラ

ラしている、一間きりの小さい家
では、水い初めの病気に一服の薬も

飲む、このできないお母やんが
病んでいる、そんな家庭で六人兄妹

の五番目に生れた健チヤンは、何
となく生気がない、その代り、他

の子供のように手に育えぬイタ
ズラもしたことがない、
いつも、私の後をくつついて廻

り、女の子達も私と二語、各異力キ
なれやつて、さるのり、見つけようもの

なら、ふつとんで来て
「コラッ、先生、オレと二人でやん

だから、おめえさ、女はなあつちさ
いつるまなぐ、

と番江ふり廻す、私の同様たちは、
「正に恋愛感情発露の才一步マア

本」がエエ話という、健チヤンは
私を母やんやんの代用御位に心得、

いたのかも知れない、
今年も、あの子も、もん、六年生に

なつたのが、ア、ア、ア、ア、ア、な
つた、こゝろ、さ、さ、私の思

出の中の健チヤンには、一回大きく戻
らない、

五月が来るたび、菜の花の咲いた
び思い出すのは、あの二本鼻、あの

麦の葉、二幅の各曲、あの二本鼻で
ニヤツと笑う健チヤンの顔だ、



る。……
 だ。……
 わつた。……
 のだ。……
 だ。……



……
 ……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……

巻のさん枝静野境

……
 ……
 ……
 ……
 ……

職場の花

……
 ……
 ……
 ……
 ……

……
 ……
 ……
 ……
 ……



……
 ……
 ……
 ……
 ……

アンケート

読者の皆様からのご質問にお答えいたします。



お名前をいり、お住まいの住所、年齢、性別、職業を記入の上、お返事先をいり、お返事をお送りください。
（回答者名等不同）

● 東京、練馬区在住、男

● 下宿屋、名古屋から

● 天望の放送があり、この頃は絶情だったので、

● オイ、オイ、泣きました、負けた悲しみ、

● 涙が乾いた時、

● 終った、この世の世で、

● 不安な心配で、

● 田舎には、

● 在り、

ました

● 成形、石原博美子

● 長野県の小説にて

● 当時、陸軍軍医少佐候補生

● でした、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 軍医の試験に合格した、

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

● 東京、練馬区在住、男

山中湖キャンプ

(事務) 平野 元 清

多岐路 是 信 之
湖殿 山 北 野 近 く
て 湖 の ラ オ オ 通 ま せ ン

た ま び び かつ た こ じ 覚
え て し り ず

湖 長 純 一 雄

目 注 祭 の 間 で 目 に 涙 が 浮
く て ラ オ オ 通 っ て 居 り 毛
した 次 に ち づ 空 襲 に よ っ
て 機 体 が 破 壊 せ ぬ だ と 上

た

湖 長 長 尾 千 香

上 百 戸 の 無 医 村 の た っ
た 一 人 の 保 護 婦 と し て
モ ン ン 姿 で 毎 日 忙 し く 働

い て いた 丁 度 中 金 ち ず
又 一 度 自 転 車 で 遠 征

訪 問 に 出 かけ よ う と し た
時 臨 時 ニ ュ ース が 入 り
珍 然 と 聞 いた オ ー 様 し

か っ た こ じ 夜 間 の 巾
着 が 自 由 に 出 来 ぬ こ じ 一
平 野 の 来 ら ぬ こ じ 一

安 だ っ た こ じ 一 平 野
け ゝ 中 に なる が こ じ 一 平
と だ っ た

板 形 堀 田 武 男

中 國 飛 行 機 で 微 用 工 と

し て 働 いて いた 天
望 の 救 済 は け っ き り 論

え 凡 か っ た け っ き も 和

田 ア ナ ウ ン セ ー が 日 本
は つ づ け に 西 西 國 に 行 っ

た か で 夢 が 夢 だ と 云 っ

た 時 に は 疾 が 出 来 した
と して ッ 方 敵 用 工 だ

ら び 石 二 三 工 務 の

ガ ラ 丁 一 割 っ て いた こ
と 一 今 で も 忘 れ ぬ ね せ

せん

板 形 堀 田 武 男

境 内 行 動 機 器 工 場 に 勤 め

て いた が 戦 況 が 悪 化 し け
ら は 勤 め を 放 り 出 して

出 会 へ 逃 避 して いた

農 村 に 逃 げ 入 っ て 行 け 所 行
て 居 る 事 が 一 丁 一 平

今日 は 寒 しい 山 中 湖 キ ャ
ン プ 朝 早 く 起 き て 出 来 の
登 山 難 を 一 生 命 命 運 だ

中 央 鐵 道 本 行 の 汽 車 に 乗
つ て 十 時 頃 大 井 敷 へ つ づ

こ こ へ 河 口 湖 行 電 車 に 乗
る 石 舟 池 へ 見 える 富士 は 溶

け ぬ 新 橋 へ 登 っ て 対 馬 目 が 大

高 山 湖 へ 登 っ て 居 る 草 草
十一 時 手 頃 吉 田 車 庫 に 着

た 今 度 の 山 中 湖 キ ャ ン プ
は 五 人 続 平 の 輪 船 さん の 兄

さん が 導 っ て 一 日 一 日 業
に 入 っ て 居 る 一 日 一 日 業

に 入 っ て 居 る 一 日 一 日 業
た の ち 家 の 周 回 の 身 体

は 了 め ン 訪 問 しよう に ス イ ス
イ と 水 面 を ず ず っ と 行 っ

た 暮 暮 の 湖 岸 が だ だ 遠 く

に 通 夫 の 身 が 黒 い 影 を 透 し

白 う 岸 の 飯 館 の 灯 が ナ ラ ナ

ラ と 黒 丁 丁 木 々 の 間 に
点 在 する 水 は 黒 ず んだ ア

波 児 童 母 子 長 尾 さん

は 岸 辺 の 木 一 人 産 っ
て 居 る 事 が 一 丁 一 平

一 人 産 た の も 悲 し げ だ
て け 乳 母 に マ オ ぞ ぞ ね ね だ
ど っ ち 変 だ だ だ だ だ だ だ だ

全 く ロ マ ン キ ャ ン プ だ っ た
朝 日 朝 日 ミ ッ ナ ヤ ン 上 自

の 空 気 は 清 々 が 良 い こ ん だ
所 に 一 幕 所 運 送 した ら ア セ 毛

ん だ だ だ だ だ だ だ だ だ だ

は 寒 だ だ だ だ だ だ だ だ だ

ひ と っ と だ だ だ だ だ だ だ

等 に 政 治 委 員 会 だ だ だ だ だ

に 鉄 金 が 費 わ っ て 居 る 限 り

海 辺 で 傍 っ て 居 る 釣 魚 者 の
か け 戸 が 後 に 開 いた コ ー ン

先 輩 が 一 日 一 日 行 っ っ っ

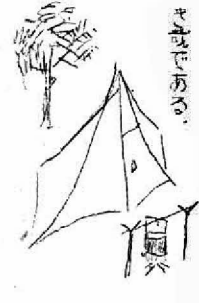
案 内 思 っ っ っ っ っ っ っ

日 の 夕 刻 一 同 元 氣 で 帰 途 に

つ づ いた シ ャ ン プ 一 日 一 日

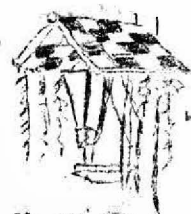
マ ン だ だ だ だ だ だ だ だ

山 中 湖 キ ャ ン プ



病院界限の今昔

（外患通信） 鈴木 輝 男



私は以前から
蘇本病院の名は
知っていたが、
予訪会で教えら

れ、さまで結核の聖地を歩いてみると
は想像していたが、と、と、と、の
は、中、生、に、な、つ、た、は、か、り、の、夏、の、あ、

る日、新井兼師の妻にあつたア
ルに、泳ぎに行き、ち、と、と、高、い、所
から飛び込んだと、と、と、が、水、が、手
く、い、が、説、話、の、脚、本、を、読、み、し、て、す
つ、て、し、ま、つ、た、楊、口、が、さ、ら、と、水、が、

着、換、着、さ、ん、が、オ、ー、ト、バ、イ、の、か、ら、派
つ、た、汗、制、汗、を、さ、さ、し、て、終、に、く、つ
たり、疲、し、た、も、の、だ、か、ら、何、ん、か、目、が
の、の、張、る、感、が、し、た、こ、れ、で、目、を、
いた、原、来、生、ま、つ、た、れ、ど、や、黙、り、し、
て、い、う、所、は、一、緒、に、疲、ら、ん、た、し、
を、思、つ、て、目、を、さ、さ、し、て、目、を、さ、さ、し、
て、い、た、目、を、さ、さ、し、て、目、を、さ、さ、し、

衣、は、汗、で、濡、れ、に、な、つ、た、や、つ、り、
名、医、だ、と、感、心、し、た、も、の、で、あ、る、
一、二、日、の、記、憶、が、う、私、は、結、核、と、結、核、本
病、院、を、結、び、つ、け、て、考、え、て、い、い、な、か、つ
た、が、又、し、振、り、で、思、ひ、な、る、と、あ、に、は
か、ら、ん、副、院、長、先、生、が、其、の、適、で、敏
捷、と、振、つ、て、居、り、た、の、で、あ、る、
今、年、の、春、ス、ト、マ、イ、注、射、エ、ヤ、リ
に、病、院、へ、か、よ、つ、た、が、外、科、治、療、室
の、病、室、に、居、つ、て、い、る、と、或、る、日、
院、長、先、生、が、「こ、れ、は、ま、つ、い、い、し、と
云、つ、て、患、者、さ、ん、の、汗、制、汗、を、振、り、
直、し、て、い、る、の、は、自、身、の、汗、を、振、り、
直、し、て、い、る、の、は、あ、の、時、の、名、医、は
こ、り、未、生、だ、と、言、つ、と、病、室、が、白、く、な
つ、た、に、思、ひ、する、が、「こ、れ、で、う、て、突
に、懐、しい、相、愛、さ、す、の、難、功、が、り、し、と、
心、の、中、で、微、笑、ん、だ、の、で、あ、る、
病、院、は、か、り、で、な、い、其、の、門、前、の
道、も、狭、い、は、戦、前、の、道、に、は、
毎、日、八、時、に、二、三、時、の、時、間、の、途、中、の、
は、昔、の、道、が、な、い、道、の、前、に、更、に、

結、核、通、道、に、ま、ま、ら、り、と、露、天、商、が
亦、ひ、私、は、五、五、銭、位、の、小、遣、い、を、買
つ、て、反、復、と、カ、ー、バ、イ、ト、煙、の、光、る、夜
店、を、覗、き、歩、いた、も、の、で、あ、る、
病、院、が、昭、和、通、に、出、る、手、前、に、昭
和、亭、が、あ、り、夕、方、に、居、る、こ、が、つ、ら
な、か、ぶ、つ、た、舞、台、を、ま、ま、舞、台、が、リ、ヤ、カ
ト、に、入、敷、工、の、せ、で、ト、コ、ト、コ、ト、ン、
ト、コ、ト、コ、ト、ン、に、た、ま、ま、通、つ、て、出
し、物、を、知、ら、せ、て、い、た、が、戦、前、の、世
相、の、小、市、民、的、な、の、と、け、さ、を、表、現、し
て、い、た、よ、う、と、感、心、し、た、
今、バス、が、通、つ、て、い、る、昭、和、通、は
丁、つ、と、狭、か、つ、た、あ、と、こ、は、十、数、年
前、に、片、側、の、家、が、取、り、払、わ、れ、道、が
直、面、よ、り、高、岡、寺、阿、佐、ヶ、谷、方、面、へ
広、く、直、つ、た、の、で、あ、る、其、の、形、陰
で、今、では、副、院、長、先、生、が、オ、ー、ト、バ、イ
を、飛、ば、す、の、に、快、活、の、道、と、な、つ、て、い
る、と、私、は、相、愛、し、て、い、る、



夏の献立

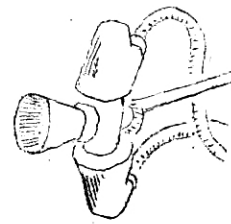
渡 辺 知 枝

◆ ホークビンス
材料 大豆一合 玉葱二個 豚小
間切二つ分 トマト一個
砂糖大匙二匙 塩小匙二匙
塩田小匙半杯

作り方 大豆は良く小豆がして
ら、次にかけ一時間茹でる。玉葱
はスライスし、トマトは湯にくけ既
に下き、種子をだし、あららに切る。
大豆を茹で、こぼし、湯に玉葱、小豆、切
トマトを入れ、湯気が上り、七、三、時、間、
位、煮、る、肉、は、脂、が、多、い、も、り、が、少、い、
★ 野菜の七ぼう、茹か、け
材料（一人分） 野菜南水各杯
片丁、三の又、晚肉八片、片栗粉
大匙二杯半、醤油、砂糖、出汁
作り方 野菜は薄味に煮て下き
ます。晚肉出汁を鍋に入れ、かき
廻し、作り煮て、醤油砂糖で調味し、
最後に片栗粉が水溶きを入れ、とろ
りとして、野菜の上にかけます。

医療相談

回答者 織本正慶



A (患者) 最近骨工とうな
い肺切除をやつたやうですが
と化す手術ですか
B (副院長) 肺切除といつ
ても肺の区域切除です。肺切
除ならば当然の空面をつか
すために多少かゝる形状を加え
るわけなので丁度肺の区域切
除では……
A 右よつと待つて下さい
肺の区域切除として何で丁か
B 肺の区域切除といふのは
右肺は右主支に分れていて
左肺は上葉、下葉の二つに分
れて右肺は上、中、下葉の三
つに分れていて、肺の

区域といふのはさらに七
分二まかく分れてゐるもの
で例をば右主葉は三つり区
域に分れ、区域は固有の一
本の気管枝とそれ七本
づつが動脈枝ともつていて
す。したがつて肺結核の進
展は区域単位でも進んでい
くものです。
A その区域をとりなが
区域切除しないで丁か
B そうです。せめてその
区域の大ききは肺の大体、
二十分の一でなく僅かしか
肺切除しないので、手術
の備置はごく僅かですし、
肺活量の減少も三〇〇が四
〇〇ですとす。
A 小つと骨は何本位とす
のかですか
B 区域切除の場合、小つ

うの肺切除のようになり、成形
を加へる必要がなく、手術
野をひろげるために一本位
とすのが小つとす。
しかし、二つ隔つた二
例は二り一本の骨もとすは
い、肋骨が一本五片削だけ
切つて許せ、おいて切除が
終つてからもその位置にも
びすといふことで、結局
骨は一本もとらないですま
せたりです。従つて外観上
何の胸郭変形もないから
か、この方が良い。また骨工
とらぬいと痛々がす。と置
いすと、肺の区域切除は、
気管枝もほとんどとせらな
いし、これでも骨もとらないで
丁かといふことには、
今後は丁かですと肺の区域切
除工やる患者が小くしてゆく
でせう。

検痰成績表 七月分



培養陰性者氏名
五月二十二日—七月二十五日
清原、五島、近藤、木村、
頭島、小島、角田、
河野、近田、小島、
小坂、服部、馬場、荻吉、
朴昌烈
五月十六日—七月二十日
坂谷、松本、小国、永井、
舟上、郡司、松宮、田中、
染谷、近藤、吉田、上沢、
葉賀、鈴木、持田、矢部、
木村、安藤、足立、赤坂、
本橋、杉野、一
五月二十五日—七月二十九日
酒井、野沢、浅子、木村、
辻、小国、上山、上沢、
鈴木、染谷、小島、近藤、
細谷、近田、橋井、郡司

関口、金沢、宮次、角田
五月十九日—七月二十四日
河田、金主姫、尾南、
石原、伊藤、伊藤、
尾島、増田、近藤、
六月二日—八月二日
加藤、杉野、田島、小林、
小島、伊藤、秋山、馬場、
内山、真子
培養陽性者氏名
和谷、利天、六月十五日、西通、K
谷合、益、六月十五日、西通、K
松本、三郎、六月十五日、西通、K
栗賀、七三男、六月二十五日、西通、K
大野、幸子、六月廿四日、西通、K
大野、義雄、六月廿四日、西通、K
渋谷、修、六月廿四日、西通、K
の推定者氏名
栗賀、七三男、七月十日—七月、
大野、幸子、七月十日—七月、
古田、マワ、七月、
鈴木、健、七月、
鈴木、隆、七月、
赤坂、文子、七月、
辻、中、七月、
大島、持光、七月、

薬品と衛生材料
誠実で勉強

卸値で提供
輸入と国産

中野区昭和道2-32

アサヒ薬品店

電話 中野(38)4733-5233

*電話でお問合せを

*すぐお届けいたします